

友のNGO

ふるぎらゆとをかいかな?

JFSA

中近東の友をめぐり
つたいのをめぐりかみかた

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会

〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10

Tel・Fax : 043-234-1206 (木曜定休)

E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp

ホームページ : <https://jfsa.jpn.org>

会報 54号 2021年1月



新型コロナウイルス感染症の影響で、3月から休校になったアル・カールアカデミーでしたが、10月に再開しました。再開した際の授業の様子です。

しかし、感染拡大にともない、再び11月28日も休校を余りました。政府は1月25日までの予定としていますが、おそく2月まで続くのではないかと、ヒムザル校長は言います。【詳しくは本誌 6ページ参照】

目次

第18回定期総会報告	2～3p
オンライン交流会	4～6p
第70回コンテナ送り出し・到着報告	7p
東葛センター便り「あらためる」	8p
千葉センター便り「常設の屋根付き売場ができました」	9p
フォトギャラリー「分ける」	10～11p
kar-khana (カルハナ) 事業紹介「距離を乗り越える」	12p

◆◇会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆◇

右記QRコード、もしくはJFSAまでメールでお送りください
メールアドレス : jfsa@f3.dion.ne.jp



第18回定期総会報告

2020年11月17日にJFSA千葉センターにて、第18回定期総会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症の予防対策、毎年度実施している重要事項の報告を行いました。

当日は、本人出席18名、身代わりと書面表決書の参加が例として、議決は団体職員「JFSA千葉市市民活動推進センター」代表の御出席が大半でした。議決は「議決事項すべて賛成されました。」

2019年度活動概要

(2019年10月～2020年9月)

1. 古着の回収イベント「カーレ事業 グループ」(A.R.B.G.)への送り出し
 回収は1車(2トン) (計画200トンを下回る)、新型コロナウイルス感染症対策でイベントの回収中止になり、バスケットへの送り出しが実行できるか判断できず、軽トラスペースを確保するため交付品を減らしたり、回収協力団体も一時取り組みを中止したところもあり、計画に達しませんでした。会員、支援メンバーの方からは「2トン(重量1500kg)を超えてはダメだ、ありがたう」と言われました。

計画していた「同の送り出し」は、目標を一度変更して送り出すことができました。「ペーパーの回収」もコロナ対策で送り出しが難しくなりました。



アル・カールアカデミー 本校周辺の子どもたち



kapre店内のkar-khanaコーナー



第6回5トンコンテナ送り出しよりフォークリフトをレンタルして作業を行なった

監査報告書

私たちが監事は2019年度(2019年10月1日から2020年9月30日)の当会の事業と活動および決算と会計諸表について11月5日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会決定に基づいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2019年度は、古着類の回収実績は年度計画の120トンに届きませんでした。2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症予防対策のため計画していたイベントでの回収が実行できなかったことが影響しましたが、112トン回収することができました。コロナ禍において前年比では微減ですが98.8%の回収することができました。一方、参加者が昨年比で10%程度減少しています。イベントでの回収やセンターへの持ち込みの中止などが影響したことが考えられますが、今後しばらくコロナ禍でも安定して、多くの方に協力いただく為に新たな広報手段、参加方法の構築がこれから急務になってきます。

4回の輸出は計画とおり行なうことが出来ました。送り出しの量も前年度より増加しましたが、計画していた4トンには届きませんでした。新型コロナウイルスの影響にもよりますが、回収計画が6年連続で未達成となっていることは大きな課題であります。今年度取り組んだ新しい回収方法の検討やコロナ禍における広報、回収手段をさらにブラッシュアップし回収量、参加人数の増加、計画を達成できるように取り組んでいきたいと思っております。

販売事業では4月以降緊急事態宣言が解除される時期まで売り上げの減少も続き予定していたイベントやセールを行なうことが出来ませんでした。オンラインストアや公式ラインの開設、SNSでの情報発信など新たな取り組みを行ない、最終的に売上目標を達成することが出来ました。千葉店では「CHARPMA BAZAAR チャルカバザール」に店名を変更し店内

の改装も行なったことで「kar-khana カルハナ」の展示販売スペースを設け販売につなげることが出来ました。今年度注目すべき点はSNSの活用や口コミによる若い世代の来店が大幅に売上げに影響していることです。これからは継続して利用いただけるアイテムの拡充や新たな客層の来店につながる仕組みづくりにもさらに取り組んでいきたいと思っております。

事業全体では6期連続黒字を達成することが出来たことは大いに評価されるべきだと思います。また、コロナ禍においてJFSAの活動に共感いただく方も多く、個人の会員、支援メンバーはともに増加しました。会員・支援メンバーの増加は活動支援の輪の広がりにあります。今後も会員増を目指す広報の取り組みを積極的に進めたいと考えています。

ホームページはスマートフォンでの閲覧も増えていることからレイアウトの変更を行ない、回収ページも見やすくなりましたが、まだ研究の余地が残されていると思います。リアルに集まるのが難しい状況の中でもネットやオンラインを活用した広報手法の研究に期待します。今後もWEB広報を複合的に利用しJFSAの活動理念と実践を積極的に会員や社会に知らせていけるよう期待しています。

2019年度は新型コロナウイルスの感染防止対策により多くの活動に影響がありました。回収やショップ販売、街角販売において新しい回収・販売方法の構築や交流活動においてもオンライン等を活用した新たな連携など、新たに取り組まなければならない事も多いと予想されますし、期待しています。JFSAの活動の「価値」がさらに共感を得て広がる事が出来るよう、役員、職員、会員の皆様や団体会員・支援メンバーの皆様一丸となって活動計画の達成に邁進しましょう。

2020年11月5日
 監事 水谷靖之 熊谷浩二

- A.R.B.G.の事業推進の推進とアル・カールアカデミーの自立支援
 - ①JFSA海外派遣先
 - 台湾A.R.B.G.の対応は、現場での各担当が迅速な対応を行ってほしいと地声し実行しました。千葉店、柏店でも派遣員を派遣しました。
 - ②調整工所「カルハナ事業」の構築
 - コロナ禍に計画していた工場の重伝や事ができず、予定は達成できませんでした。調整工所は法人個人間の男性スタッフが加わり、技術向上につながりました。
 - 2. 国内事業
 - ①センター 業務
 - 作業の効率化を図ってレイアウトを変更しました。選別協力団体が定期的に選別作業、コロナ換気、軒先などに参加しました。
 - ②業者センター
 - 新たな選別協力団体の受け入れや、コロナ禍でのセンターでの作業の見直しがあり、前年実績を大きく上回る見込みができています。
 - ③ショール(販売)
 - コロナ禍でセールはできませんでしたが、公式ライン、店舗の既着販売を始めました。

3. 広報活動
 - ①A.R.チャルカバザール(中心)に愛着し、店内の改装を行いました。
 - ②Kapro(カプロ)の始動
 - 指図書を作成しコロナ増一階建てになりました。業務の作成が完了しました。情報収集その節に努め、SNSでの情報発信も積極的に取り組んでいます。
 - ③新商品開発
 - 大津市環境、上野公園、千葉製菓、赤羽公園、世田谷公園でのフリーマーケットに出店し、後半はコロナ禍で多くが中止になり、千葉店のオンライン販売に取り組んでいます。
 - ④販路多角化
 - 三団体の内、二団体は一時休業しました。一団体は売り上げを伸ばしました。
 - ⑤市民活動イベント企画
 - 例年をこなすイベントに参加し、主催のイベントを行なう予定が、コロナで後半は中止になりました。
 - ⑥広域活動と地域の連携
 - 回収に参加し方には、次回の回収のお知らせを入会案内を送りました。会員、支援メンバーとも増え、継続の方も増えました。交流を計画していましたが、コロナ禍で実施できませんでしたが、3回実行し、ホームページをリニューアルしました。



千葉店で販売している野菜

5. 研究
 - 各担当が役割別にない、全体では実施できませんでした。
 - 6. 多数の団体の連携
 - 団体職員、弊団体(自取やコロナ送り出し)、イベントなどを連携を深めました。コロナ禍により、相互に交流を深め、後半のイベントには参加できませんでした。
 - 7. アル・カールアカデミーの教育・運営事業に関わる人との交流
 - コロナ禍により自取には届きませんでした。ムサビに緊急に緊急会でオンラインを促して近況報告をもらいました。
 - バスケットへの派遣は2019年11月、12月、2020年2月、3月に行ないましたが、後半は実施できませんでした。
 - 8. 危機管理の強化
 - 新型コロナウイルス感染症予防策、熱症対策を実施しました。バスケット運行ではマニュアルに拾った危機管理を行ないました。

オンライン交流会

海外事業担当事務局 依知川 守

コロナ禍で、人と人が直接会うことや集まることが依然制限されています。J.F.S.Aも2020年3月にパキスタンを訪問して以降、現地では電話やメールなどで連絡を取り合っています。このような状況で、もししたら現地との交流の機会を作れるか考え11月17日(木)J.F.S.A定期総会の後、パキスタンとオンラインで結んで交流会を待ちました。

交流会には会員18名が参加し、パキスタンではカラチのアル・カールアカデミー本校からムザヒルバトとAKBG事務局カユム氏、そして開校したばかりのキャンパス8からは学校スタッフのサード氏に繋ぎ、学校の様子を伝えてもらいました。

パキスタンからの報告

まず、ムザヒル校長から挨拶と現在の学校の状況について報告がありました。

「今回はお話しする機会をいただきありがとうございます。このような状況の下で、一方通行ではないJ.F.S.Aとの関わりを大切さをあらためて感じています。」と述べられました。また会員からは「学校再開に際しての新型コロナ

ウイルス感染症の具体的な感染対策は?」という質問があり、「全ての生徒、先生にマスクを配布し着用を義務付け、毎日登校時に検温を実施しています。また学校では手洗いや手指の消毒を行なうことも指導しています。今は生徒も先生も感染しないよう注意深くする必要があります。幸い今のところ感染の報告はありません。」と答えがありました。

AKBGのカユム氏からは、前回のコンテナの価格交渉について、また古着マーケットの現状について報告がありました。

「(一)この交流会の時点ではヨーロッパの古着は新型コロナウイルス感染症の影響でまだ市場で少なく価格も高い状況が続いておりますが、日本などアジアからの古着はほぼ正常に輸入されています。気温の下がる時期であり、古着マーケットの状況は良いです。」とのことでした。また「新型コロナウイルス感染症により世界中が大きな影響を受けており、私たちが一方的に支援を求められるような状況ではないです。今大切なのはお互いに家族の健康状態を尋ねたり、気遣うような関係ではないでしょうか。」と語りました。



キャンパス8に通う女の子たち
写真中央がインタビューしたアリーシャさん



登校時の検温の様子
華氏98.2度 → 摂氏36.8度

続けて2人の生徒アリーシャさん(12歳、5年生)上の写真中央の、スーリビーンさん(10歳、3年生)を扱い、日本からインタビューをしました。2人とも以前はキャンパス3に通っていたそうです。アリーシャさんの好きな科目は英語、父親の仕事は中古テレビの修理だそうです。スーリビーンさんの好きな科目はウルドゥ語、父親は救急車のドライバーだそうです。二人は家では家族とパロチ語やフラーフイー語で話すと教えてくれました。パキスタンの国語はウルドゥ語で、学校ではウルドゥ語で話しますが、パキスタンの人口約2億人のうち、ウルドゥ語を母語としているのは約1千万人(人口の約5%)と知られています。特にこの地域はパロチ語、スターン州との境に近く、カラチへ仕事を求めに来ている多くのパロチ人が住んでいます。2人とも日本のことはあまり知らない話していました。この約半年の休校の間は、自習したり、遊んだり、家の周辺で過ごしながら、学校の再開を待っていたそうです。最後にインタビューのお礼を伝えると「私たちもお返りできて嬉しかったです。ありがとうございます。」と答えてくれました。



キャンパス8の授業の様子



10月に学校が再開した際の授業の様子

パキスタンへのコンテナ送り出し・到着報告

アル・カイルアカデミーの新たな取り組み

交流会の教員後、ムザビル校長と家族が新型コロナウイルスに感染したが、い連絡を受けました。とても心配したのですが、幸い大きく悪化するとはなく、暫くすると熱も下がりは落ち落ち着いたようです。回復後に電話をする。「今は元気になったけれど、後遺症で以前より疲れます」と話していました。そして「パキスタンでは残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大により、政府の判断で再び11月28日から休校となりました。政府は1月25日までの予定ではありますが、恐らく2月までは続くのではないかと思っています。学校としては、授業は行わないものの、先生と生徒(幼児クラス以外の1年生)カレッジは毎日学校へ来て、宿題のプリントを渡して、「まず」ということでした。また新型コロナウイルス感染症の影響で各地の工場が閉鎖されており、生活に困っている家庭に対しては食糧支援を継続しているようです。

第70回コンテナ送り出し 積み込み重量

24トン190キログラム

2020年9月30日、第70回の送り出しを無事にこなすことができました。2019年度(2019年10月)・2020年9月は年間計画として立てたA/B/Gへの4回の送り出しを遂行することができました。

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて世界中のコンテナ物流に影響が出たため、私たちが送り出しができません。それに伴い回収も困難なため受付目的の固定等の対応をすることになりました。古着選別作業も感染拡大防止のため選別協力団体の参加を一時中断しました。そうした状況が徐々に、回収・選別・販売・広報等、様々な場面において、できるのはどんな方法かを一緒に事業をすすめる人々と考え歩んできました。時にそれはこれまでのやり方を改めて見直し、そのこの意味を再考するきっかけになりました。

そうして迎えた第70回送り出しはとも感深いものがありました。コロナ禍によってそもそも日常的に行われていたことが崩れました。しかし、「送り出し」が予定を出す人からそれを運ばない人まで、多くの人の関わりと様々

に支援を求める相談があった場合に、学校のスタッフが家庭訪問をして事情を確認し、その上で支援を決定しているようです。具体的にはミシンを提供し、職仕事ができるようにして縫製の仕事を斡旋したり、自宅の前で野菜を売る店を始めるのを手助けしたりしているそうです。そして仕事を始めたら、定期的にスタッフが家庭を訪問して様子を確認しているのだそうです。早く現地で直接様子を見て、話を聞きたいと思

います。いまマケテイング用語でOMO(Organize Market Online)オンラインとオンラインの融合という言葉があるそうですが、私たちの交流の場でもオンラインのツールも活用しながら、今後も活動を進めていきたいと思います。



10月の再開後の授業の様子

な要素が集まってようやく成り立ち立ったことを実感しました。ちょうど数日前、約半年休校となっていたアル・カイルアカデミーが段階的に再開し、いよいよ嬉しい知らせが到着していました。現在は再び感染拡大のため1月25日まで休校予定。子どもたちが学び続けているからこそ、このコンテナの利益をそれを支えるものになります。積み込みに参加した選別協力団体の方が支える側から支えるものがなくなる上回る。という意味合いの言葉を聞きました。支えることで支えられる。これからも人と人が支え合、関係性の自立を目指す事業をやりたいと思

第70回コンテナ到着報告

卸売価格

1キログラム当たり111ルピー

10月4日に横浜港を出発したコンテナは、11月12日にカラチ港に到着しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、シンガポールからカラチまでの航路が減便されており、約2週間到着が遅れました。コンテナはA/B/Gから卸売業者ニース氏に販売され、11月21日に荷下ろしが行われました。卸売価格は1キログラムあたり111ルピーとなり、2019年度としては最も高い価格となりました。今回は、現地需要の激しい

男性半袖衣類や毛布等の需要を多く受けることができたためです。A/B/Gの粗利は約30ルピーなる見込みです。



第70回の送り出し ボランティアの皆さんと (JFSA千葉センター)

	送り出し量	卸売価格 (1kgあたり)	純利益(ルピー)
第67回 1月25日	22トン844キログラム	107ルピー 1kgあたり0.7円	66万9992ルピー
第68回 5月12日	22トン314キログラム	102ルピー 1kgあたり0.65円	46万7477ルピー
第69回 7月14日	23トン407キログラム	106.5ルピー 1kgあたり0.62円	64万8913ルピー
第70回 9月30日	24トン190キログラム	111ルピー 1kgあたり0.64円	約80万ルピー

パキスタンカラチ市に到着したコンテナ荷下ろしを行なう荷役労働者
茶色い袋には靴が入っている ↓



カラチ市の商店で卸売業者と関わりながら活動する子ども

あらためる

昨年がキヤン期間中、アル・カイール事務所の脱務のために事務局のカユム氏が赤十字事務所を訪ねるのに行行しました。カユム氏は、「一風変わった気質のある赤十字士だ」とのこと、どんな人なのか会うのが楽しみでした。その人は、事務所であいさつして日本から来たことを伝えるなり、「日本は素晴らしい」と力強く自分を言いました。その理由を尋ねると、事務所エアコンを日本メーカーの物に替えたが故障もなく快適に通せていることや、車のタイヤを日本産にしたらパンクせず安心して乗っていられたことなどを語り、パキスタンを含む経済的に貧しい国がそれを見習うべきだと話してくれました。個人的に、その時を生きた大正生まれの祖父が、第二次世界大戦で戦死してとても大変な状況だったことから世界有数の経済的に豊かになったことを語り、パキスタンを含む経済的に貧しい国がそれを見習うべきだと話してくれました。その祖父が養われたような気になり、少しうれい気持ちになりましたが、同時にその時を生きていない自分は胸を張れるようなことが無いような気持ちにもなりました。またその人は正しくない仕事をすることを嫌いで、例えば大金持ち、大企業政治家などから依頼があつて、断つたらその後の影響がありそうでも自分がおかしいと思った仕事は引き受けないそうです。N

GOもパキスタンでは胡散臭いことが多く好きではないのですが、アル・カイールは好きな日本からの協力を得ているという点で信用して仕事を受けているとのことでした。

このようにたびたびパキスタンで日本の話を聞くことがあります。こう見えても思っていることと違ふところもあります。コロナ禍では変化した状況に否応なく対応を迫られました。東葛センターでも古書の受付や仕分け、販売の様々な面で以前と違う方法で取り組んでいます。順調に進まない仕分けや良い結果が得られていない販売も、その詳細を自分たちだけですることは難しいです。かといって簡単に人から評価を得ることできないので、できるだけ自分たちで徹底的に見ることができるようにならなければいけません。それをする上で、東葛センターの店舗「カブレ」(カブレ)には多くの開業を営むお客さんがいらつしやるので、そのみなさんとお話しさせてもらうことが大きな助けとなっています。売上の落ち込まず人手の確保、仕入れの難しさを取り組んでいられる、今までと違ったこといういったことに取り組みむつもりだという話などをお互いすることで、確かめ合うこと

常設の屋根付き売場ができました！

CHARKHA BAZAAR(チャルカバザール)では、この地域、千葉市中央区都町に根付いたお店にしていきたいという思いから、通りにあお路に入りやすいように屋外にも売場を設けています。これまでではここに毎朝イベント用のテントを立てていましたが、雨や風にしつかり断えられる常設の屋根を設ける計画を立てました。

設計が施工にあつては建物通称ボランティアの方のお連れ合いの加工さんや、選別協力団体オアシス、千葉ダルク九十九里ハウスのみならず全面的にご協力をいただきました。千葉ダルクには大工仕事の技術や職人をお持ちの方もいて、メンバーの個性を活かした見事なチームワークと知恵で、手際よく組み立てていく様子は活きました。このチームなら、様々な経費をかけた千葉ダルクならではの事業が興業できるのでは？と思うほどでした。

屋根の付いた屋外売場では沢山の品物を陳列できるようになり、雨漏りの心配もなくなり、以前より快適な環境になりました。今年の夏から始めた野菜販売(千葉ダルク、生活クラブ、紅と白のファミリー、産直会)のコーナーも、入荷日を楽しみにする方や散歩中にとまりと寄つて下さるご近所さん多いっしやいます。また、パキスタンか

ら輸入するアメリカやヨーロッパ古着のコンテナが2021年1月に到着する予定があり、さらにパリエーションに富んだ売場にしてお客さんに楽しんでもらえるようにする計画です。

千葉店では2020の夏頃から10、20代の若いお客さんが多く来店されるようになりました。以前は中高年層のお客さんが9割以上を占めていましたが、最近では全体的にに来店者が増え半数強が若い層になってきています。これまで店を支えてくれたおじちゃんやおばちゃんたちも引き続き顔を見せさせていただきます。コロナ禍の影響でしばらく来店されていなかった女性の方が「久しぶりに来られて日常に戻った感じがしてほっとした」とおっしゃっていました。その方の日常生活の一部にお店の存在があることをとても嬉しく思いました。

店の前を通りには椅子(10脚程)を毎朝出しています。そこではお客さんがお買い物後に「服たりおしやりしたりと、くつろぐ様子が見られます。お客さんだけでなく、多くの散歩中のご近所さんやボランティアの仕事をなさる方などの休憩地点にもなっています。ここがいろいろな人にとって心地よい居場所となつていければいいなと感じています。

東葛センター担当事務局 田辺航太郎

ができるように思います。見栄を張つたり腹を割つたり相手との関係によって様々ですが、それが支えとなることは大きいと感じています。

もちろんそれは、一緒に働く仲間たちでやっつけていかないとけません。お互い話し合つて、今までこれらを改めて、革めて、新たに、取り組んでいきたいと思つています。



仲良く、楽しく、こんな時から前向きに！みんなで取り組みます。

千葉センター担当事務局 入江賢治

これからは売場けてもらえるようにしていくことは地域との向き合い方も案がっているように思います。リニューアルした屋外売場とともに「都町の古着屋」CHARKHA BAZAARが多様で幅広い世代のお客さんと顔が見える関係を築き、この地域にとつて大卒だと思える場所となつていけるようにしたいです。



経験者の大工さんを中心に屋根を設置する作業の様子。

* 屋根設置費用の一部は2012年に実施した「JFSAおぎん」のカンパを充てさせていただきました。

JFSA千葉センター / CHARKHA BAZAAR(チャルカバザール) 営業時間：10時30分～19時(水曜定休)
千葉県千葉市中央区都町 3-14-10 電話 050-3746-8684

JFSA東葛センター / 古着ショップ kapre (カブレ) 営業時間：10時30分～19時(不定休)
千葉県柏市大宮 176-1 電話・FAX 04-7110-0984



アル・カイルアカデミー本校で20年以上働いている給食室のおばさん
お米の中に混ざった小石をより分けている



フォトギャラリー

تقسیم کرنا

タクシム カルナー

アル・カイルアカデミーのキャンパス2があるゴミ捨て場で暮らす家族燃やしたあとのゴミの中から金属屑やガラス、動物の骨などをより分け、お金に換えて生計を立てている

カラチ市内にある特別輸出加工区（通常の拡大と外貨収入の増大を目的とした保税地域、輸入した原材料を加工して輸出すれば関税が免除されるエリア）輸入された大量の古着を種類ごとに分けている労働者たち
種類や状態を瞬時に判断し、分類するかごの中へ手を休めることなく投げ入れていく

「分ける」

1つにまとまっているものをいくつかの部分する。分割する。
種類によって区別する

縫製用の衣装を作っている
針縫を指すため、装飾用のビーズをより分けている
アル・カイルアカデミーの子どもたちもやっている仕事のひとつ
照明が十分でなく停電も多いため、目を傷める子もいる





距離を乗り越える

縫製工房、カーキハナ事業の担当として前回のパキスタン派遣から、なかなか次の派遣のスケジュールを組めずにそろそろ一年が経とうとしています。縫製工房へのオーダーも、今までに付き合ひのあるお店さんへの働きかけからオリジナル商品を作ってみたい、と言っていただけになりなりました。ほかにもスタッフのアイデアでこんなものを作ってみよう、とお客さんに見せると自分たちの分も作ってほしいと、とても嬉しい反応をいただき、それが日本での製作依頼につながっています。

コロナ禍の前までは商品のサンプルやパターンを派遣時に持っていく、細かくサイズ、デザイン、色、と確認を行なってきましたが、それができない状況です。縫製工房が始まった頃の2012年の段階では派遣なしで商品製作を進めるのはかなりリスクがあったかと思えます。ですが、現在はオンライン上でのカメラを使った打ち合わせによって派遣なしでも商品仕様の確認や変更などがスムーズに行なえるようになりました。また、縫製工房だけでなく、古着ショップでもスタッフ発案のリメイク商品の製作や、オーダー受注も承っています。こんなものができるのか、といったようなご相談、お待ちしております。

ブルオーバーシャツ



商品紹介
カッディを用いたブルオーバーシャツ。サイズは3サイズの展開となっています。色、柄は現在5種類ありますが、今後増やしていく予定です。価格は税込み4800円〜(※柄や織り方などで価格が変動します)

今回は手織り生地「カッディ」を使用したシャツの紹介です。カッディとは織り機を使った生地の名称で、パキスタンではこの生地を用いた服や雑貨などを販売するブランドの名前にもなっています。手と足で器具を駆使して織ることとあれば、モーター駆動で織ることもあります。カルハナのカッディは職人による手仕事で織られています。

カッディは、手織りということもあり、とても肌触りの柔らかい生地となっています。アル・カイールアカデミーで子どもたちに織り方を教える先生でもあるフアハド氏とその家族に生地製作をしてもらっています。プレーンな生地だけでなく、ベイズリーやストラ
イブといった柄の入ったものやシャープレー織りといったような織り方によって生地の発色や特徴が変わるものまで織り上げます。
シャツのデザインは、ヨーロッパのヴィンテージシャツをベースにカフス部分や、袖丈の変更を行い、男女ともに一枚でも重ね着にも合うオールシーズン着られるものとなっています。前立て部分の下半分はシングルのタックが入ることによって身幅が広がります。着心地はゆったりしていてもシルエットはきれいに保たれます。
こちらの商品はほかにもリネンや、テンスルの生地でも販売をしています。生地の違いを楽しみながらお選びいただけると嬉しいです。

kar-khana事業担当事務局 小島 慧

2020年度の会員・支援メンバーを募集しています (2020年10月~2021年9月)

2020年度 正会員 個人: 146名、団体: 8 賛助会員 個人: 1044名 (1月中旬現在)

JFSAは正会員及び賛助会員(支援メンバー)で構成されています。
皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推進する力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。

- 年会費 (10月~翌年9月)
個人: 会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
団体: 会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

- 会費振込み口座 (郵便振替)
番号: 00160-7-444198 口座名: JFSA
※活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい